

2026 年 7 月 19 日（聖霊降臨後第 8 主日、A 年特定 11）

メッセージ

「神の忍耐」

（マタイによる福音書13:24-30, 36-43）

司祭ヨセフ太田信三

今日の福音でも、主イエスは天の国をたとえ話によって示されました。

敵が夜の内に毒麦を蒔いてしまいます。それを知った僕らは、毒麦を抜き集めることを主人に提案しますが、主人はそれを望みません。「麦も一緒に抜くかもしれない」からです。実際、毒麦は実をつけるまでは麦と区別することが難しく、誤って麦まで抜いてしまう恐れがあったのです。さて、この主人の反応は何を表しているのでしょうか。それは、神はこの主人のように、実りを信じ、忍耐してくださる方である、ということです。

神のその忍耐を、主イエスはご自身の生き方によって示されました。主イエスは人々から「徴税人や罪人の仲間」と見られていました。洗礼者ヨハネは主イエスが「悪を滅ぼす」ことを期待していたので、主イエスがなかなかそれをしないどころか、罪人との交わりを深めるのを見て疑問を抱き、「来たるべき方は、あなたですか」と問わずにはいられなくなる程でした。しかし、主イエスが来られたのは、人々を糾弾し、滅ぼすためではなく、忍耐と憐れみをもって、人々を悔い改めへと導くためだったのです。神の忍耐により神の憐れみと赦しを経験した者は、神の寛容さを、そして神の深い愛を知ることになるからです。

しかし、人は忍耐することができません。そのことが先程の僕の言葉に表れています。

「毒麦を抜き集めましょうか」と伺い調ですが、内心は早く抜いてしまいたい。人は、忍耐する神よりも、すぐに力を発揮してくれる神を求めてしまうのです。さらには、自分の手で確実に実りを得ようとし、焦り、刈り取ろうとする。つまり、裁くのです。しかし、その先には神が忍耐の先に実現してくださる豊かさとは遠く離れた、貧しく、寂しい世界しか待っていません。

何が正しく、何が悪なのかということは、具体的なことになればなるほど分かりにくく、識別は難しくなります。完璧な識別など、人間にはなしえないのです。であれば、そのことを認め、裁きは神に委ね、自らはみ言葉に誠実に生きようとすることに励みたいと思います。今日のたとえ話しの主人のように、神は忍耐をもって、わたしたちを見つめておられます。目先のことに囚われ、裁き合うのではなく、忍耐してくださる神に信頼し、忍耐と憐れみをもって互いに関わり合うことを諦めない。そう生きられますように。またわたしたちの共同体がそのような共同体とされますように。心から求めましょう。その先に、「正しい人々は父の国で、互いに太陽のように輝く」世界が広がっています。